

●書学書道史学会

会 報

第 41 号

令和3年(2021)6月1日発行

編集・発行

書学書道史学会

会報編集委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル 9F

(株) 毎日学術フォーラム内

TEL (03)6267-4550

FAX (03)6267-4555

MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

新たな社会状況の中で

中村 伸夫

第4波といわれるコロナウィルス感染症の再拡大の中、私たちの学会は令和3年度の活動に入りました。昨年のこの時期に刊行された『会報』第39号では、秋に開催が予定されていた盛岡大学での大会を一年延期せざるを得ない旨報告したところです。一年後のこの『会報』第41号で、ふたたび盛岡大学での開催延期について通知しなければならないことになりました。感染症拡大の影響が長期にわたり、先が見通せない社会状況の中での判断とはいえ、一年前には予想できなかった事態となっています。

盛岡大会の再度の延期は、先ごろ開催した今年度の第1回常任理事会で協議し、結論が得られたものです。この常任理事会では、大会に併せて開催される「総会」と「研究発表」の方法について協議が行われ、総会については昨年度と同じく代替方法によること、また、研究発表については国内局からの提案にもとづき、オンラインによる開催を実施することになりました。発表者の募集については別記のように行い、7月はじめに開催予定の第2回常任理事会で発表者を決定します。オンライン開催の具体的方法については、本学会のホームページに別途紹介されることになっています。

会員諸氏の研究成果が公開される研究発表は、学会誌の刊行とともに、

斯学の向上と発展を主たる目的とする本学会の活動の根幹を成すものです。将来を見通したオンライン活用による研究発表方法の確立の必要性からも、はじめての試みとなる今年度の開催に万全を期すべく、国内局が中心となり各局の協力のもと準備を進めて参ります。尚、今年度のオンラインによる研究発表では、規定により大会での口頭発表が課されている研究促進助成金採択者(2018年度採択者2名、2019年度採択者2名)による4件の発表も行われることになっています。

本学会の新たな「会計処理規則」にもとづく会計に関する事務処理については、会計業務委託者である(株)毎日学術フォーラムの協力のもとに、事務局長が中心となり今年度の業務が進められています。この「会計処理規則」は、昨年春に特別の調査委員会を設置し、調査を継続して参りました会計処理問題に関する最終結論をふまえ、事務局内規として制定されたものです。役員全員が責任者となり、規則にもとづく厳格な対応を行う所存です。

第1回常任理事会の審議結果をふまえ、新たな時代に即した本学会のあり方を検討する「将来構想委員会」が、河内利治副理事長を委員長として、富田 淳、笠嶋忠幸、菅野智明、鍋島稲子、矢野千載、下田章平、高橋利郎、高橋佑太、成田健太郎(敬称略)の全10名により構成されることになりました。この委員会には以下に挙げる3つの小委員会(WG)が設置され、相互の連携をはかりながら協議を進めることになっています。

○小委員会A「大会実施計画WG」

(委員長…笠嶋忠幸、委員…鍋島稲子、矢野千載)

○小委員会B「研究活動推進WG」

(委員長…富田 淳、委員…高橋利郎、成田健太郎)

○小委員会C「会則第17条検討WG」

(委員長…菅野智明、委員…下田章平、高橋佑太)

本学会の将来を方向づける重要な任務を担った委員会です。会員各位のご支援・協力をお願いする次第です。(本会理事長)

第31回書学書道史学会大会研究発表者募集要項

国内局

依然として新型コロナウイルス感染症が拡大していることから、本年度の第31回書学書道史学会大会は、オンライン配信による臨時形式にて開催いたします。会員各位の日頃の研究成果について、意欲的かつ積極的な発表を期待し、左記の要領で募集いたします。なお、IT機器を扱う発表形式となりますため、恐縮ではありますが、これに対応可能な発表者に限らせていただくことをご了承ください。

開催方法の詳細につきましては、決定次第、本学会のホームページおよび「大会のしおり（含レジュメ集）」にてお知らせいたします。

記

①開催日／方法…令和3年10月31日（日）、オンライン配信（東京都内に設ける会場に発表者が集合し、当会場よりライブ配信する予定です）。

②発表時間…発表20分。質疑応答の時間を設ける予定です。

③申込方法…事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：mat-syogaku@mynavi.jp 担当：平坂真弓氏）まで、Eメールにてお申込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込（※発表希望者氏名を付す）」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目、および発表の要旨をレジュメ（800字程度）にまとめてご提出ください。

④レジュメ…原則として、ワープロ（テキスト形式、Word ファイル形式のいずれか）で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。

⑤申込締切…6月30日（水）必着。

⑥発表者の決定と連絡…7月4日（日）開催予定の常任理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。

⑦9月下旬に「大会のしおり（含レジュメ集）」を会員へ配布する予定です。この内容は、ホームページ上にも掲出いたします。

※注記

- ・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第32号への論文投稿申込があったものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。
- ・学会誌への論文投稿締切は、令和4年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は査読委員会において決定されます。
- ・今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催を中止する場合があります。

令和3年度書学書道史学会総会の扱いについて

事務局

国内局からのご案内の通り、本年度の第31回書学書道史学会大会は、オンライン配信での開催となりました。このことに伴い、従来大会初日に開催していた通常の総会を実施することができません。「書学書道史学会会則」第24条には、「総会は年一回大会に併せて開催し、本会の運営に関する重要事項を決定する。」と規定されているところですが、本年度は昨年度と同じく以下の代替方法により、例年行われている議事・報告に代えることといたします。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

◆代替方法

令和3年10月開催予定の理事会の議事内容をふまえ、全会員宛に事務局から、議事次第、審議と報告のための各種書類、賛否記入のための郵便ハガキを送付し、指定期限内に届いた返信の3分の2が賛成の場合は、審議事項につき承認が得られたものとして扱うこととします。結果は「会報」第42号で報告いたします。

全会員宛に送付するのは、以下の通りです。

(1) 議事次第

(2) 審議のための書類

①令和2年度会計決算報告書（案）

②令和2年度事業・活動報告書（案）

③令和2年度会計監査報告書（案）

④令和3年度会計予算（案）

⑤令和3年度事業・活動計画（案）

(3) 報告のための書類

国内局・国際局・学術局・研究局・編集局・事務局・会報編集委員の各局（委員会）が作成した報告書ならびに関連資料（必要な場合）。

事務局よりご報告とお願い

事務局

◆理事の辞任について

副研究局長の鈴木晴彦理事より、理事の辞任と退会の申し出（3月6日付）がありました。3月30日にメールによる理事全員の承認を経てこれを受理いたしましたので、ご報告申し上げます。

なお、第16期における理事（副研究局長）の補充は行わないこととなりましたので、合わせてご報告いたします。

◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費は、6月30日までにご納入ください。なお、令和3年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。

また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。ただし、退会（除籍）適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

なお、海外在住の会員を対象に、クレジットカードによる年会費の納入が可能になりました。クレジットカード決済を希望される方は、事務局（株毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@nnavi.jp 担当：平坂真弓氏）までご連絡ください。

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時（学生証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、会員変更手続き（「会員変更申込書」の提出）が必要です。とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、ご注意ください。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。

なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会

承認」各欄は記入不要です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局（株毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@nnavi.jp 担当：平坂真弓氏）へお願いいたします。

◆会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

一昨年度、会員名簿が発行されました。会員各位の諸項目の加筆修正や、ご知友の会員の情報提供をお願いします。その他の問合せや情報提供は、本会報一面の事務局（株毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@nnavi.jp 担当：平坂真弓氏）へお願いいたします。

なお本年度、新しい名簿を発行の予定です。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

岩永大貴（鹿児島商業高等学校）
坂本宏則（兵庫県立御影高等学校）
佐竹伽寿真（山形県立南陽高等学校）

◆学生会員

于含章（大東文化大学大学院）
笠原綺華（筑波大学大学院）
後藤さくら（大東文化大学大学院）
佐藤汰一（筑波大学大学院）
千葉圭亮（大東文化大学大学院）
張月（二松学舎大学大学院）
中山陽介（國學院大学大学院）
松永絃明（筑波大学大学院）
馮景一明（大東文化大学大学院）
李源（大東文化大学大学院）
李松樺（大東文化大学大学院）

※令和3年1月～4月に申請された方

各局報告

◆国内局

第31回大会のご案内について

2ページにてご案内いたしました通り、かねてより準備を進めてまいりました盛岡大学での大会開催は、現在の状況に鑑み再度延期することになりました。本年度の大会は、臨時の措置としてオンライン配信により行います。会員各位にはご面倒をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

開催方法の具体的な内容や、大会会場の記録および配信に関する一切は、目下、鋭意調整中です。決定次第、順次学会ホームページへ情報を掲出させていただきますのでご参照ください。

(局長 笠嶋忠幸)

◆国際局

海外展の状況

漢字文化圏を中心とする海外の博物館・美術館で開催される展覧会等について、各機関の情報を学会ホームページ上でご紹介します。

海外研究者とのオンライン学術交流

リモートワークが普及し、オンラインによる学術交流も身近になってきた趨勢を受けて、海外で活躍される研究者の方々とのオンラインによる講演会等の実施を検討しています。詳細については追ってご案内いたします。

(局長 富田 淳)

◆学術局

学会誌30号のJ-STAGE登載

令和2年10月31日刊行の『書学書道史研究』30号を本年3月16日にJ-STAGEで公開し、即日、本学会のホームページにてお知らせしました。

WEB「学会名鑑」実態調査回答と結果公表

昨秋、内閣府日本学術会議事務局から、同会議協力学術研究団体に対してまいりました令和2年度実態調査に回答した結果が3月19日更新の「学会名鑑」で反映されましたが、年度末の理事一名の退会を受け、再修正いたしました。その他

独立行政法人科学技術振興機構からの「J-STAGE利用機関・意向・満足度等アンケート」も毎年のことながら設問が多くなってきましたが、局内で諮りつつ回答しました。また「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」に関するアンケートには、理事長から同会議事務局に回答していただきました。

(局長 森岡 隆)

◆研究局

「研究促進助成金制度」による研究計画の募集について

「研究促進助成金制度」による2021年度研究計画を募集いたします。奮ってご応募ください。詳細は「研究促進助成金制度／2021年度募集要項」と「2021年度書学書道史学会『研究促進助成金制度』応募研究計画書」をホームページに掲載しておりますので一読ください。

■研究期間…令和3年9月1日～令和5年8月31日の2年間

■研究促進助成金…一件につき30万円（3件まで採択）

■申請受付期間…令和3年6月1日（火）～6月7日（月）

■申請方法…学会ホームページ掲載「2021年度書学書道史学会『研究促進助成金制度』応募研究計画書」(Word形式)をダウンロードし、受付期間内に下記問い合わせ先までEメール（添付ファイル）で申請して下さい。

■問い合わせ先：maf-syogaku@navi.jp

■問い合わせ方法…Eメールのみ（2021年度研究助成問い合わせ）と
（記入下さい。）

2018年度・2019年度採択者の大会発表について

「研究促進助成金制度」採択者は、「研究促進助成金規程」において、交付年度翌々年の大会で口頭発表を行うことが義務付けられています。2019年度の採択者は、本年度第31回大会での口頭発表を必ず行うようお願いいたします。また、昨年度の大会が実施されなかったことから、2018年度採択者も本大会にて口頭発表を行うようお願いいたします。

令和3年度の研究局は、河内、福田哲之、権田瞬一、角田健一の4名で運営して参ります。研究局に関するご意見がございましたら、上記問い合わせ先か局員までご連絡ください。

（局長 河内利治）

◆編集局

学会誌第31号の編集と第32号の投稿申込みについて

第31号では、会員の投稿論文の他、特別寄稿や最新研究動向紹介なども掲載する予定で、期日までに投稿された会員の論文については、現在査読を進めています。また、第32号は、従前どおり事前の申込み（12月末締切、大会発表者の除き要旨を添付）が必要となりますので、学会ホームページ所掲の投稿規定をご確認願います。

（局長 菅野智明）

◆事務局

令和3年度事業・活動計画（案）

本来ならば総会で承認を得るべきものですが、現段階でのおおよその予定としてここに提示いたします。変更等の可能性もありますので、ご留意願います。また、常任理事会・理事会・懇談会は、状況によりオンラインまたはメール会議となる場合もあります。

4月25日 令和3年度第1回常任理事会（オンライン会議）

5月11日 令和3年度第1回理事会（メール会議）

6月1日 第41号《会報》発行及び発送

（以上は執行済み）

6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）

6月下旬 令和2年度決算会計監査

7月4日 令和3年度第2回常任理事会（会場未定）

10月下旬 令和3年度第2回理事会（会場未定）

10月下旬 令和3年度総会（書類送付による審議・報告）

10月31日 第31回書学書道史学会大会（オンライン配信）

10月31日 第31号『書学書道史研究』発行及び発送

12月中旬 第16期名簿発行及び発送

12月31日 第32号『書学書道史研究』投稿申込締切

1月15日 第42号《会報》発行及び発送

2月中旬 第17期役員選挙投票締切

2月中旬 第17期役員選挙開票（会場未定）

3月上旬 選挙選出理事による緊急懇談会（会場未定）

3月中旬 臨時理事会（会場未定）

3月31日 第32号『書学書道史研究』投稿原稿締切

（局長 橋本貴朗）

事務局（株毎日学術フォーラム内）への電話でのお問い合わせにつきましては、政府の緊急事態宣言の発令を受けてのテレワークの導入に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。

ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

視点

「揚州八怪」展の開催をめぐる

弓野 隆之

勤務先の大阪市立美術館では、「王羲之から空海へ」から4年を経た昨年度の中国書画展の企画として「揚州派」を取り上げ、中国絵画担当の森橋なつみを主として開催を目指してきました。弊館としては昭和44年の「揚州八怪」展から半世紀を跨いだ主題で、世界的に見ても近年大規模な展示が行われていません。

「揚州八怪」は日本人に人気がありますが、清朝書画史上の位置付けとしてはもう少し重視されてもいいかと思えます。書法史的には明末清初の趙宦光・傅山・鄭簠・朱彝尊らの篆隸への試みを承けて、金農の「漆書」や鄭燮の「六分半書」に代表される独自の様式の創造がありました。魏碑が注目される以前の段階で、高鳳翰・汪士慎・高翔・楊法らも篆隸を研鑽しました。ただ「八怪」後の揚州では伊秉綏らが活躍し、阮元を生んだのも揚州だったことにはあまり触れられません。帖学から碑学への移行期にあつて、「揚州派」は鍵を握ります。また行草作品が多い華岳・辺寿民・李蟬・黄慎・李方膺・羅聘らの書法は、その成就の程度は置くにしても、董其昌や趙孟頫が貴ばれた時代の所謂帖学派とは明らかに一線を画すもので、ここもなかなか関心が深まりません。

彼らの書画はその清新さに目を引かれます。一例として、古来「書画同源」「詩書画一体」とか「書の筆法で画を作る」とか言われますが、黄慎などあるいは「画の筆法を書に入れた」かも知れません。筆法だけではありません。図に挙げた鄭燮と黄慎の作品では、画面を構成する上での部品として、書と画が不可分というより、どちらかが無いと成立しません。題詩・画賛という領域を超えて詩書画が融合しています。こうした作例が頻出し始めるのが、「八怪」時代の揚州です。

同時に特筆すべきは、揚州社会における文化人ネットワークの維持と、書画の商品化です。これらは「海派」「京派」ほか後世の書画家に大きな影響を与え、近代に至っています。

以上は、本学会会員の皆様からすれば既知の事柄でありましょう。しかし、実物の作品によって、こうした史実を俯瞰することは容易ではありません。最大の理由は、彼らの作品と称されるものは世に数多存在しますが、贋作があまりにも多く、名品を揃えきれないことです。本展では、国内の機関・個人の蔵品を広く調査するとともに、清朝書画では屈指の収蔵を誇る上海博物館の特別協力を賜りました。お蔭を持ちまして、「八怪」15人のうち14人（李勉の作品は上海博にもなく、蘇州博物館から画像のみ借用）と、彼らの先駆者・周辺人物・後継者らの作品計108件により展示を構成しました。

だが遺憾なことに、昨年から本年に会期を延期したものの、疫病は未だ已まず、海外からの輸送が許可されません。ついでに断腸の思いですが、国内作品のみでの開催とし、上海博の作品は図録と画像で紹介することにいたしました。6月から開催できますでしょうか（笑）。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

【会期：令和3年6月12日（土）～8月15日（日）、展示替：7月12日（月）
詳細は、大阪市立美術館ホームページ <https://www.osaka-art-museum.jp/> をご覧下さい】

下 黄慎「花鳥虫図」より 上海博物館蔵
左 鄭燮「贈杏花樓主竹石圖軸」 上海博物館蔵



Topic

大東文化大学の書道と
デジタル・アーカイブスの公開

藤森 大雅

勤務先の大東文化大学では、建学の精神に基づく漢学と書道に係る研究が行われてきた。その研究基盤を創立100周年（令和5年）へと繋げる「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による『東洋人の「道」研究教育の推進』事業が、文部科学省の平成30年度私立大学研究ブランディング事業（全体事業代表者・河内利治教授）に採択された。

本事業は8つの研究プロジェクトチームと学園広報チームで構成されており、その中から書道とデジタル・アーカイブスに関連したチームの研究成果の概要を紹介する。「書跡のデジタル・アーカイブス化」チーム

書道学科、図書館、書道研究所が管理する貴重書跡を中心としたデジタル・アーカイブスの構築を目的としたチーム。主な内容は、書跡の総点検・精査、デジタル撮影およびデジタル・アーカイブスサイトでの公開『大東文化大学書跡総合目録』の作成およびWeb公開であり、中国・台湾などの海外の研究機関とも連携して〈中国学〉〈書道学〉のイノベーション研究拠点の形成を目指す。

平成30年度から令和元年度にかけて書道学科の甲骨片、中国・日本書跡、古硯、印材、金石拓本等、貴重書71点、書道研究所の現代名家の書作品110点の総点検と精査を実施し、令和元年度末にデジタルカメラによる撮影が終了した。令和2年度に一部をデジタル・アーカイブスサイトで公開し、令和3年度には図書館貴重書跡を追加する予定である。

「道」研究」チーム

人文科学研究所「東アジアの美学研究班」（代表：中国文学科・門脇廣文名誉教授、書道学科・河内利治教授）が『論語』にみえる



〈道〉字の用例と歴代の解釈を整理しつつ、思想・哲学の面から〈道〉について探求する論語班と、中国古代からの〈道〉字の書跡資料を収集して文字学・書道史的観点からの考究を試みる書道班に分かれて研究に取り組んでいる。

書道班の研究は、同研究所の亀澤孝幸専任研究員、川内佑毅兼任研究員によって、西周から唐末にいたる文字資料から計473例を収集し、時代・地域・媒体・書体などによる分類・整理を行った成果が『中国美学範疇研究論集』第7・8・9集に連載されている。今後2年間で清末の全時代をカバーするデータベースを完成させ、順次デジタル・アーカイブスサイト上で公開する予定である。

「拓本コレクションのデータベース化」チーム

大東文化大学が所有する東洋の知的財産資源である拓本コレクションを精査し、デジタル・アーカイブスとして公開することを目的としたチーム。中国の西周から清末、日本の奈良・鎌倉・江戸・昭和期の拓本コレクションである「宇野雪村文庫」（1434種）と、中国の新出土拓本コレクションである「西林昭一文庫」（131種）の精査、時代考証を平成30年度より実施した。

調査と並行して行われたデジタルカメラによる撮影は令和2年度に全てが終了した。「宇野雪村文庫」の冊子本が先行公開されているが、その他の資料についても解説を付して順次公開していく予定である。

この他、「漢籍のデジタル・アーカイブス化」チーム、「自校史教育・研究の推進」チームの資料を加えた「大東文化大学デジタル・アーカイブスサイト」(<https://www.i-repository.net/il/meta/pub/0000721daito>)が令和3年3月8日に一般公開された。現在、書跡・拓本・漢籍等830点が掲載され、今後も増やしていく予定である。これに先立ち、協定校の國立台灣藝術大學とのオンラインシンポジウムが3月5日に開催され、通訳をはきみながら約2時間、貴重な意見交換が行われた。なお、この様子は大学のホームページで一般公開する予定である。

書跡のデジタル・アーカイブス化により、本学が所有する知的資源が国内外の研究者や学生に広く活用されるとともに、貴重な資料を後世に伝えていくことが期待される。

談話室

非対面授業

押上 万希子

令和2年度、勤務する藤女子大は後期最初の5回を除き非対面授業だった。GW明けの非対面実施とともにLMSを使い始めることができたのが幸이었다。

実技科目は特例があり前期最初の5回のみ非対面。上級生はオンデマンドで課題を出し、書いたものを撮影して提出させ、印刷し、添削したものをスキャンして返却の繰り返し。下級生はZoomによるオンライン。PC内蔵カメラで顔を映し、スマホにアプリを取り入れ課金し、それを手元カメラとして、道具の扱い方や私が書く様子を映し出した。

前期の教育法、Zoomでの模擬授業はできることが限られる中、ホワイトボードを用意したり、自宅の床で大きなものも書けるようにしたりと、学生たちの努力に救われた。他教科からも声が上がリ、後期からは特例で対面になった。

より早いコロナの収束を願うばかり…

文化としての「書」

— 日本文化としての要件 —

河島 由弥

昨年、縁を頂戴し、求龍堂様より

『夏目漱石—書道文化における「教養」の変容—』を刊行いたしました。その中で幾度となく日本の「文化」について考える機会に巡り合ったのですが、私的には「歴史」を有し「ポピュラー」かつ「オリジナリティー」を備えたもの、この要件を満たすものが、いわゆる「日本文化」なのではないかと著書の執筆を通して思い至りました。

書の場合、その歴史は言わずもがな、社会には種類を問わず様々な書が溢れ、「オリジナリティー」においても、日本独自の魅力を備えています。つまり、書は紛れもない「日本文化」と言えるでしょう。

また、科学の進歩により、書は人の「心」のありようにも影響を及ぼす可能性が指摘されるなど、文系や理系といった学問領域を越え、そのポテンシャルに注目が集まりつつあると感じております。

この分野の研究に携わる一人として、興味の絶えない毎日です。

書画カメラ

清水 文博

コロナ禍で非対面の講義が模索され、勤務している山梨大学でもオンライン講義を開講しています。講義では書画カメラ(OHCなどとも)に大変お世話になっています。最近は専ら書画カメラと呼んでいます。最近の「書画」というネーミングには何だか親近感がわきます。

書分野でのこの機器の使用方法を、使

用されている先生方といかに情報共有するかは最近の関心事です。カメラの角度にしても、全体を見るには上からがよく、斜めのほうがよい場合もあります。機器による違いもあることと思います。こういった話や、活用の秘策について対面で飲食しながら語り合いたいと願っていますが、なかなかそうはいかないことが悩ましいことです。

オンライン授業を通して

谷口 成孝

新年度に入り、勤務する相模女子大学では対面授業が再開された。昨年のオンライン授業では試行錯誤の連続であったが、その分、例年に無い気づきも得られた。

私の場合は、いずれもオンデマンド型とし、PowerPointで作成した内容に音声を入れ、時には映像なども交えながら、授業の3分の1程度の長さになるよう編集した(残りは実技)。

授業で使用している教室はICT機器が充分とは言えず、従来の授業では表現の特徴や線の微細な変化をどう伝えるか、特に仮名は文字も小さく、説明に苦労することが多い。学生との距離を取って…となると尚更である。その点で、視覚的、且つ繰り返し視聴出来る動画の有用性は高い。

またいつオンラインに戻るか不安定な状態ではあるが、まずは対面下の活用法について模索していきたい。

編集後記

◆中国や台湾を訪ねる機会が無くなり、博物館や美術館に行く回数が減っています。これまで調べた資料を再確認する毎日です。

(小川博章)

◆今春、出光美術館では担当する「松平不昧生誕270年 茶の湯の美」展を、予約制を導入して開催いたしました。展覧会に合わせて不昧の蒐集した茶道具の目録『雲州蔵帳』も翻刻しましたが、新たな発見も多く、勉強になりました。

(金子 馨)

◆母の書道教室が、今年50年という節目を迎え、私が事業承継をして10年が経ちました。「五十にして天命を知る」の気持ちで、一筆ごとに心を込めて頑張ります。

(亀田絵里香)

◆先日、ある高校生から書の質問を受けました。一見当たり前のような内容の質問でしたが、それを疑問に思わなくなっている自分に気付かされました。初心を忘れず、気を引き締めていきたいと思っています。

(野中直之)

◆2年後に勤務先が創立100周年を迎えます。これにあわせた官学連携事業の一環として書道を生かした新たな試みがすでに始まっています。書道の魅力を再認識できたと同時に、その魅力を発信するためには既存の枠組みにとらわれてはいけないと感じる今日この頃です。

(藤森大雅)

◆例年夏の勤務先の学生書展、昨年と同様ウェブ開催の運びとなりました。6月21日〜7月末の予定です。「筑波書」で検索ご覧いただけます。最近、学生の力強く若々しい作品・文章を見るたびに羨ましく感じられます。

(尾川明穂)